

ヨコハマサイト

ヨコハマトリエンナーレ2017のテーマや主要なキーワードである「接続性」や「孤立」、「共生」、「多様性」。これらと結びつくような事業や展示を実施してきた施設、あるいは歴史的背景をもつ場所や建造物を「ヨコハマサイト」と呼び紹介します。

また、アーティストの田村友一郎はいくつかの場所を星座のように結びつけ、独自の視点で創りあげた物語「 γ 座」を構成。田村が紡ぎ出した物語は、山下公園に係留する日本郵船氷川丸の「旧三等食堂」で鑑賞できます。



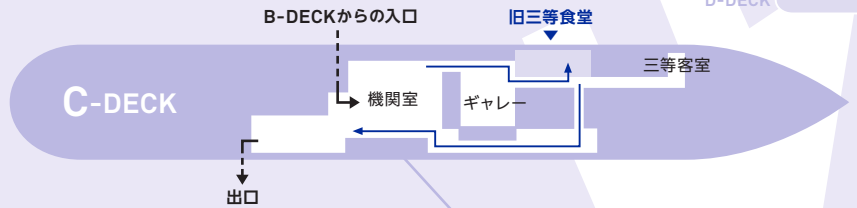
かつて海を航行する船乗りたちは、夜空に浮かぶ星座を頼りに自らの位置を知った。しかしその技術は、GPSに取って代わることとなる。技術の更新は、現在を過去へと押しやり“かつて”をもたらす。

かつて明治政府によって保税倉庫として建設された赤レンガ倉庫は、港湾都市横浜を代表する倉庫施設であったが、貨物のコンテナ化によってその役目を終える。同様にかつて日本とアメリカを結ぶ北太平洋航路の主役を担った氷川丸は、航空機の登場によってその役目を終え、かつて遠洋航海の船舶間の通信で主流だったモールス通信は、衛星通信の登場によってその役目を終える。主役としての仕事を終え、横浜に座する“かつて”たち。それらにいまいちど耳を傾けてみる。そこから浮かび上がる配置に γ 座と名付ける。

田村友一郎

公開場所：日本郵船氷川丸「旧三等食堂」
開館時間詳細については次頁参照。

田村友一郎《 γ 座》展示場所（旧三等食堂）



ヨコハマサイト

A 日本郵船氷川丸

1930年に太平洋を横断する貨客船として就航し、1960年まで運航。戦時中は海運特設病院船として運用され、任務中に3回触雷に遭いますが、日本の大型貨客船の中で唯一沈没を免れました。終戦直後は復員船・引揚船として日本と南洋諸島や大陸を往復。その航跡は、海路における「接続」と「多様性」を象徴しています。

横浜市中区山下町山下公園地先
みなとみらい線「元町・中華街駅」4番出口より徒歩3分
10:00-17:00 (最終入場 16:30)
月曜休 (祝日の場合開館、翌平日休館)
臨時休館 9月5日(火)

*ヨコハマトリエンナーレ2017のチケット提示で入場無料です。

*田村友一郎《Y座》公開場所の「旧三等食堂」は通常は非公開エリアです。場所は日本郵船氷川丸の一般公開ルートの最終エリア内、「三等客室」手前にあります。

B 海上保安資料館横浜館

日本周辺海域の現状と海上警備の重要性を紹介するため2004年に開館。館内には、2001年12月22日に発生した九州南西海域不審船事案で使われた工作船及び回収物などが展示されています。海に囲まれた島国日本の平和で豊かな海と国民の安全・安心を守ることで、多くの恵みをもたらす「海」と海洋国家の発展との「共生」について考える機会を与えてくれます。

横浜市中区新港1-2-1 赤レンガパーク隣
みなとみらい線「馬車道駅」「日本大通り駅」より徒歩8分
10:00-17:00 (最終入場16:30)
月曜休 (祝日の場合開館、翌平日休館)
入場無料

C 旧横浜港駅プラットホーム跡

横浜港駅は1911年に、横浜税関構内の荷扱所として建設されました。1920年に横浜港駅となり、東京駅から初の汽船連絡列車(岸壁列車)が乗り入れ、その後1928年にプラットホームが設けられました。遺構は当時の人々や物流の往来を通して、海外航路時代の華やかな最盛期の各国・各地域の結びつきを物語っています。

横浜市中区新港1丁目
みなとみらい線「馬車道駅」「日本大通り駅」より徒歩8分

D 横浜税関資料展示室

開港にともない、関税と外交事務を扱う神奈川運上所がいまの神奈川県庁所在地に設けられ、開港当時は運上所を境に西側が日本人居住地、東側が外国人居留地でした。横浜役所と改称後、1868年明治政府に移管され、1872年横浜税関に改められます。関内外を結ぶ境界の地が、現在の国内外を結ぶ施設となった移り変わりは自然な流れであったといえるでしょう。展示室では、貿易の変遷の歴史と輸出入通関の流れを読み取ることができます。

横浜市中区海岸通1-1 横浜税関本関1階
みなとみらい線「日本大通り駅」より徒歩3分
10:00-16:00 (5~9月中10:00-17:00)
入場無料

E 日本郵船歴史博物館

日本郵船は1885年に郵便汽船三菱会社と共同運輸会社が合併して誕生し、日本の海運会社として初の遠洋定期航路を開きました。それから今日に至るまで、氷川丸を含む各地の港と港を結んだ幾多の船の航跡は、星座のように浮かび上がります。博物館では、内外の船舶の発着港であった横浜の歴史性に立脚し、国や地域、人とモノを結ぶ海路の役割や歴史を紹介。海運史を通して人とモノの「接続」の実態とダイナミズムを知ることができます。

横浜市中区海岸通3-9
みなとみらい線「馬車道駅」より徒歩2分
10:00-17:00 (最終入場16:30)
月曜休 (祝日の場合開館、翌平日休館)
臨時休館 10月17日(火) - 10月20日(金)

*ヨコハマトリエンナーレ2017のチケット提示で入場無料です。

F 岩亀稲荷

開港後に栄えた港崎遊郭の一店である岩亀楼の遊女らが足を運んでいたお稲荷様です。岩亀楼の中でもとりわけ人気のある遊女、喜遊(亀遊)はアメリカ軍人の相手になることを頑なに拒み、【露をだにいう倭の女郎花ふるあめりかに袖はぬらさじ】という辞世の句を残し自害したという説があります。開港間もない横浜の「ガラパゴス」ともいべき遊郭を舞台としたこの悲劇は、続く攘夷運動の激化を予感させる出来事として言い伝えられています。

横浜市西区戸部町4-152
JR「桜木町駅」より徒歩10分

*有料施設はヨコハマトリエンナーレ2017のチケット提示により無料でご鑑賞いただけます。
*ヨコハマサイトの開館日・時間は各施設に準じます。
*各施設(日本郵船氷川丸除く)にヨコハマサイト用の案内看板・作品はございません。予めご了承ください。

G 掃部山公園

この地は、明治初期に鉄道敷設に携わった技師の官舎が建てられていた他、湧き水を蒸気機関車の給水に利用していたことから鉄道山と呼ばれていました。1904年、旧彦根藩が、横浜開港に貢献した井伊掃部頭直弼の記念碑を建立し、1914年に横浜市に寄付したことで掃部山公園となりました。日本を孤立から接続へと導いた開港、人や物資の接続を象徴する鉄道。「接続」にまつわる歴史性が秘められた公園といえるでしょう。

横浜市西区紅葉ヶ丘57
JR「桜木町駅」より徒歩15分

H 横浜外国人墓地

鎖国が終息した後、横浜では、横浜中華街や山手など外国人居留地を設け、独自の外交を進めてきました。19世紀から現在に至るまで40か国余り約5,000人の外国人が、この高台の地に眠っています。ペリーの意向を受け、横浜村の増徳院の境内にアメリカ海軍の水兵ロバート・ウイリアムズの墓が設置されたことが始まりです。開港以後に日本に渡来した人々の歴史から、当時の情景が甦ります。

横浜市中区山手町96番地
みなとみらい線「元町・中華街駅」6番出口より徒歩3分
(資料館) 10:00-17:00 月曜休
(墓地) 雨天を除く土日祝のみ募金のための一般公開 12:00-16:00